

海上無線通信の最新動向

宮寺 好男 （技術士 電気電子部門）
日本無線(株) マリンシステム事業部
企画推進部 事業企画グループ

全世界的な海上遭難・安全システムとして GMDSS の導入が始められたのは 1992 年、完全実施は 1999 であり、既に 20 年以上が経過している。国際海事機関（IMO）において、次世代 GMDSS の導入が検討されており、平成 24 年から平成 28 年にかけて GMDSS の総論及び各論の検討が行われ、GMDSS 近代化計画が平成 29 年度に策定され、現在、GMDSS を規定する海上における人命の安全のための国際条約（SOLAS 条約）の改正及び関連する機器の性能基準等の改正作業が行われている。

一方、国際電気通信連合（ITU）では、2019 年世界無線通信会議（WRC-19）の議題として「GMDSS の更新と近代化」が設定されており、その他にも自律型海上無線機器（AMRD）の導入及び VHF データ通信システム（VDES）の衛星での利用が議題として検討されている。さらに、次回 2023 年世界無線通信会議（WRC-23）の議題も提案され始めている。

これらの背景により、GMDSS 近代化の審議状況、海上無線通信で利用されている各システムの状況並びに新たに導入されようとしているシステム及び機器の動向等、海上無線通信に関する最新動向の紹介を行う。